「天文教育・普及の直面する問題 ーいま，天文関係者のやるべきこと」のポスターとフォーラムの報告

日本天文学会と天文教育普及研究会の共催により天文学会期間中に相模原市市民会館において，天文月報5月号に案内した内容で実行された．

《ポスター》

27件のポスターが掲示され，活発に意見交換された．内容は天文教育普及に関するアンケート結果（これまで天文教育普及研究会の年会集録に掲載されたもの）と天文教育普及の危機を訴える（特に研究者に対して）天文月報短期連載のポスター化したものが大部分である．これに加えて，短期連載に関連した「学校で何を教えるべきか—天文研究者の責任」に関する提案，「進む“理科ばなれ”と各学会の対応」を具体的な例やデータで示すもの，「天文・宇宙機関の納税者への還元事業」の現状と提言に関するポスター（イラスト入りで，内容もアピーリング）等が提示された．

《フォーラム》

進行係（水野）によりフォーラム開催の経緯が説明され（天文月報5月号参照），討論に先立ち，テーマについての基調発表とコメントがあった．

①「天文学会が行ってきた天文教育・普及」（唐牛宏：国立天文台・天文学会庶務理事）●学会定款には「普及」の言葉がある．最近は天文月報に力を入れた．●年会に教育セッションを設けたり，研究1・教育1の発表をというのはまだpending．Q：顕彰制度の検討はその後どうなっているか．A：原案がradicalすぎる，組織（人・金）としてできるかという批判あり，pending．ワーキンググループ再開し，手直しして評議員会に出したい．

②天文教育・普及について考えること（小暮智一：美星天文台・天文学会元理事長）●研究者の養成と国民への還元作業は車の両輪の如くで各分野の連携が必要．●アマチュアと研究者との結びつきが希薄．欧米では研究者が普及組織に積極的に関与．●教育・普及のために天文学会の支部活動を活発に．美星天文台は地域における天文普及の拠点になることを目的に揚げている．

③「理科ばなれ・天文ばなれ」（縣秀彦：駒台学園中学高等学校）●物理学会や化学会等は教育問題を扱う委員会があり，理科ばなれに関連したシンポジウム等を開催．●天文分野の学校教育での内容が悪化．これまで文教関係への働きかけが理科分野・天文分野で弱かった．●天文学会に天文教育・普及の委員会常設を提案．

④「研究成果の社会への還元」（出雲晶子：横浜こども科学館）●実例をもとに現状の問題点を指摘し，非常に説得力のある具体的提案．●「天文宇宙機関の納税者への還元事業」（天文月報掲載予定）を是非参照．

⑤コメント「研究者の果たす役割」（福江純：大阪教育大学）●理想としては，日本に立派な天文の施設・研究成果があるから日本を守る価値がある，という状態にしたい．●天文学会に次の委員会を設置することを，人選も含めて提案．

広報委員会（情報提供および宣伝：委員長）
教育委員会（特に学校教育（？）：委員長）
出版委員会（啓蒙用写真集・VTR等：委員長）

⑥コメント「研究者の責任」（長谷川哲夫：東大天文学教育研究センター）●学校教育の天文で何を教えるべきかがまず考えられるべきで，何が教えやすいかが優先されてはいけない．その後，それをいかに教えるかが工夫されるべきである．

●天文学会としては「天文で何を教えるか」のワーキング・グループを設けるよう理事長に提案．

※討論の後，

天文学会に問題解決のため専門委員会設置を提案する（実働メンバーも含め）こととなった．この提案の原案を福江氏が作成し，天文教育普及研究会の夏の年会で検討する．

水野孝雄（東京学芸大学　〒184 東京都小金井市貫井北町4-1-1）